国指定重要文化財

不破八幡宮本殿

宗教法人　不破八幡宮

不破八幡宮の由緒

不破八幡宮は文明年間 (1469～1486 年)、前の関白一條教房公が応仁の乱を避け、荘園経営のため中村に開府した時、幡多の総鎮守且つ一條家守護神として、山城国 (京都府) に鎮座する石清水八幡宮を勧請したものです。江戸時代までは正八幡宮、広幡八幡宮と称されていましたが、明治初年に不破八幡宮と改めて、明治五年には社格が県社となりました。

現在の本殿は、永禄元年 (1558 年) から翌二年 (1559 年) にかけて、一條康政氏に京都から招聘された宮大工の北代右衛門氏により建てられたものです。三間社流造、屋根はこけら葺として都風の洗練された技術による室町時代末期の本殿建築として重要文化財に指定されました。土佐一條家の文化を今に伝える唯一の貴重な建造物で、高知県下の神社では当宮本殿が最古です。

国指定重要文化財
不破八幡宮本殿

所　在　地　高知県四万十市不破 1392
指定年月日　昭和３８年7月１日
構造形式等　三間社流造、こけら葺　附・棟札９枚

現在の本殿は室町時代に建てられ、その後数回修理が行われてきましたが、当時の様式が保存されています。

形式は三間社流造、屋根はこけら葺きです。柱・組物・蔀戸（しとみど）・身舎蟇股（しんしゃかえるまた）は室町末期の典型的な様式を現しています。また、彫刻には地方色ゆたかな大胆な手法を示しており、我が国の古い建築分布上からも重要とされています。

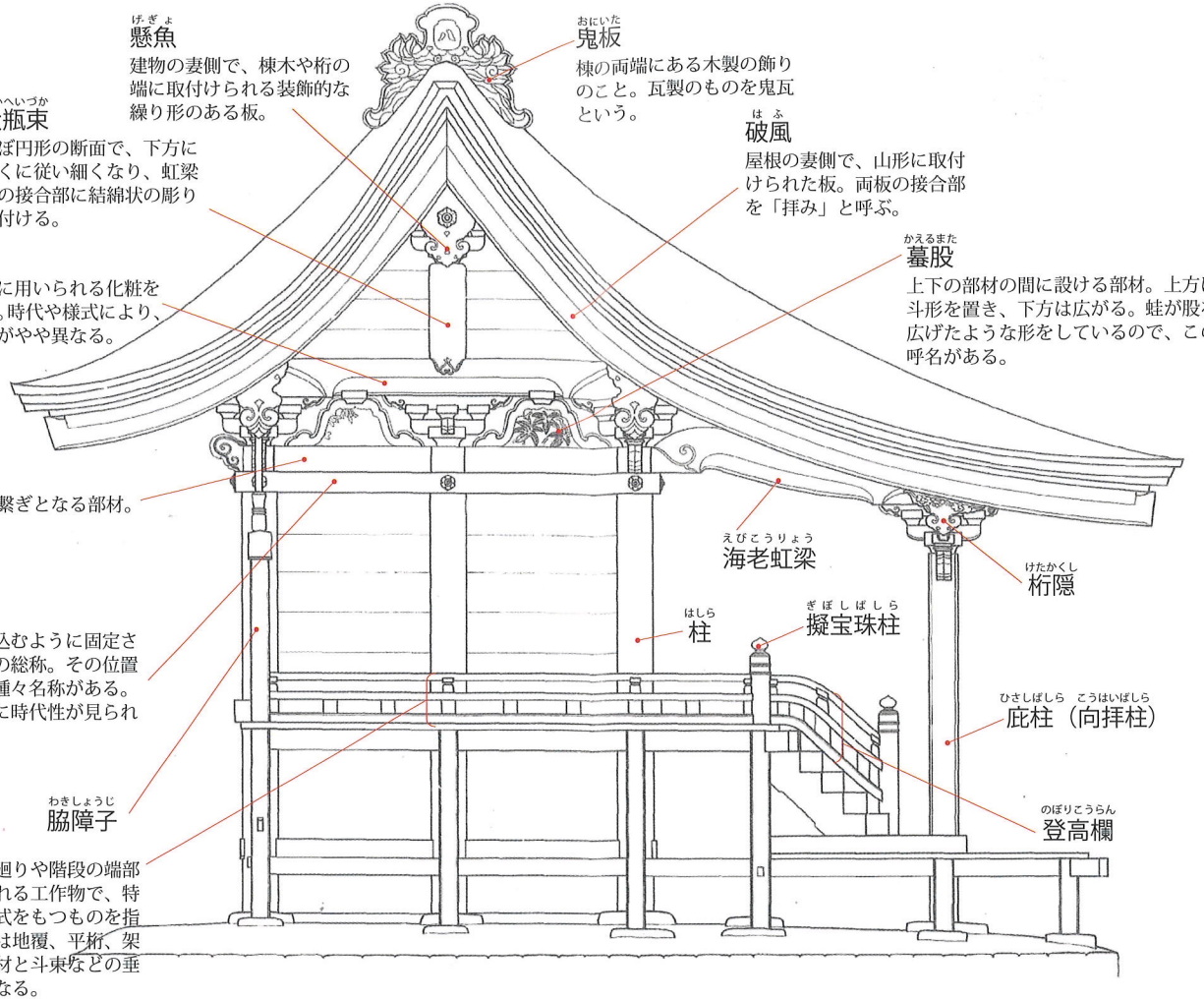
流造とは、切妻造、平入の正面側に庇を延ばしたものをいい、身舎と庇（もしくは向拝）からなります。桁行方向での延長が自由であるため、規模は一間、三間、七間、九間、十一間など多彩です。不破八幡宮本殿は、桁行方向が三間ですので、その形式を「三間社流造」と呼びます。流造は古代から中世、近世を通じて全国的に最も広く流布した形式と言われています。

修理の履歴

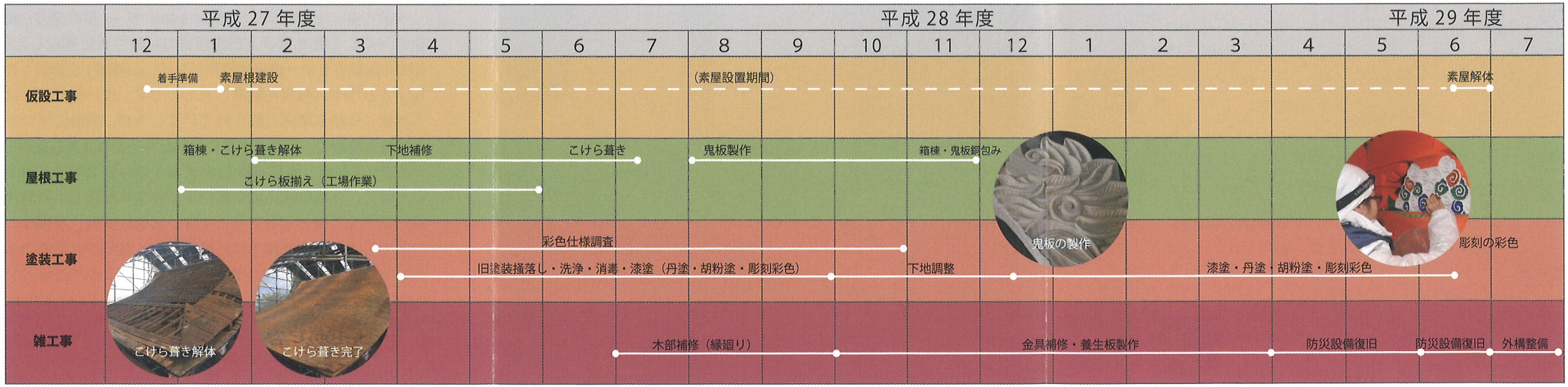
不破八幡宮では大規模修理が約 100～150 年に一度、屋根葺替などの部分修理が約 20～30 年に一度のサイクルで行われてきました。修理での部材の取替等を最小限にしてきたため、現在でも当初の部材が多く残っています。

● 永禄二（1559）	現本殿の建立
○ 天正未（1583 ？）	屋根の葺替
○ 寛永 8（1631）	屋根の葺替（？）
● 元禄 10（1697）	半解体修理
○ 延享 4（1747）	屋根の葺替
○ 明和 7（1770）	屋根の葺替
○ 天明 6（1786）	小屋組修理と屋根の葺替
○ 寛政 12（1800）	柱根継
○ 天保 2（1831）	屋根の葺替
○ 安政 4（1857）	屋根の葺替
○ 明治 15（1882）	屋根の葺替
● 明治 33（1900）	大修理
○ 昭和 7（1932）	屋根の葺替
● 昭和 41（1966）	全解体修理
○ 平成 8（1996）	屋根の葺替と塗装
○ 平成 27（2015）～	屋根の葺替と塗装

● 解体修理
○ 屋根葺替修理



修理の工程



平成 27～29 年度の修理内容

【方針】屋根の葺替と塗装および部分修理（工期 20 か月）

屋根こけら葺は前回の葺替 (平成 8 年) から約 20 年が経過し、経年による劣化と風雨による破損が生じたため、今回の修理で屋根全面の葺替を行いました。こけら葺きなどの植物性屋根の耐用年数は約 30 年といわれていますが、日常的に四万十川から吹く風や、毎年のように訪れる台風の影響を受けて屋根や塗装の破損がより早く進行してしまったと考えられます。

また、今回の修理工事では屋根の葺替えとあわせて、腐朽した木部の修理や、経年劣化が進行した漆塗り、丹塗り、胡粉塗り、彫刻彩色を塗り直しました。伝統工法を用いた修理は、これまでも数十年に一度のサイクルで行われ、大変な手間がかかる作業ですが、本来の姿を維持し続けるうえで非常に大切な事であると同時に、伝統的な工法や技法を次世代に継承するうえでも意義の深いものです。

屋根の葺替え

こけら葺きとは杉や椹（さわら）を薄く割った板材を、少しずつずらし重ねて屋根を葺く技法のことです。ここでは手割の杉板を竹釘で打ち付けています。手割板を使うことで木の繊維をこわさず、水切れが良く、屋根が腐りにくくなります。

部材の補修

高欄や鬼板等風食や腐朽が激しく、耐用年限に達していたので、補修や取り替えを行いました。屋根の最上部にある東西の鬼板は厚 15cm の檜材を 2 材中央でつなぎ合わせて作られていました。

彩色の塗り直し

修理前の彩色は、風雨の影響で、ほとんどが剥落していた箇所もありました。現状で確認できる顔料を記録し、僅かに残る顔料を精査することで、当初の彩色を可能な限り再現しました。

漆の塗り直し

漆塗は、上塗仕上げの場合、約 30 の工程を経て完成します。柱は 400 年以上前の木材ですから、下地調整を特に念入りに行い、平滑な面に仕上げるため、塗り、研ぎ、固めの作業を繰り返し行いました。

不破八幡宮の歴史を伝える品々

地域を代表する神社として、多くの文化財を所有しています。

彫刻の断片

過去の修理で発見された彫刻の一部。

経石

本殿建立の祭事に伴うお経を書いた石。

市指定文化財

『不破八幡宮神事』

神様の結婚式と呼ばれる祭事

市指定文化財

幸徳秋水の絵馬

幸徳秋水が 19 歳の頃に奉納した絵馬

不破八幡宮へのアクセス

連絡先

高知県四万十市不破 1375-7 社務所

TEL　0880-35-2839

修理現場から 文化力 POWER OF CULTURE